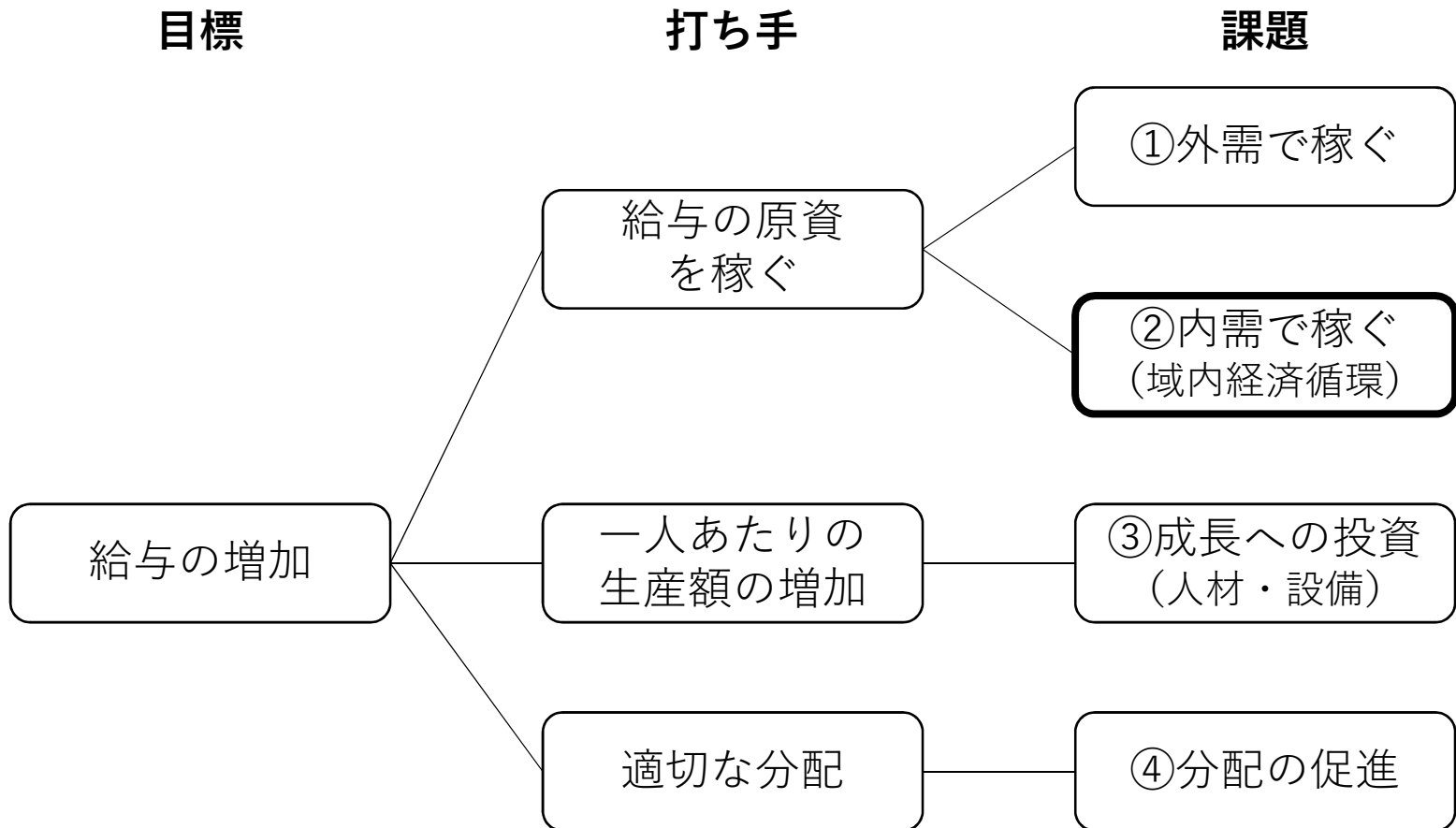


会議の目的とスケジュール

1 「稼ぐ力」で示された目標と打ち手、課題

- 令和3年12月に取りまとめられた「稼ぐ力に関する万国津梁会議」提言では、県民の「給与の増加」を最終目標とした打ち手と課題を以下のように整理。



2 「稼ぐ力」で示された方策と本会議で扱う議題

- 課題①～④に対する方策として以下が示され、このうち観光分野に関わりの深い方策として「観光需要の年間平準化」「経済循環の促進」が挙げられた。
- 昨年度は「観光需要の年間平準化」をテーマとする会議を実施。
- 今年度は「観光を基軸とした経済循環の促進」をテーマとする本会議を設置。

「稼ぐ力に関する万国津梁会議」提言における課題と方策

- ① 外需で稼ぐ
 - 観光需要の年間平準化による稼ぐ力の強化 ☆昨年度
 - 県外・海外とのビジネス機能の強化
 - 稼ぐための「作る力」の強化
- ② 内需で稼ぐ（地域経済循環）
 - 観光を基軸とした経済循環の促進等 ★今年度
- ③ 成長への投資
 - 雇用者への適切な所得分配による企業の成長
 - 稼ぐ力を備えた人材の確保・育成
 - IT化やDX等、成長のための投資の推進
 - 企業の成長への投資促進
- ④ 分配の促進
 - 認証制度の創設
 - 共感を広げる取組

稼ぐ力に関する
万国津梁会議
提言

令和3年12月
稼ぐ力に関する万国津梁会議委員会

3 今年度会議のテーマ「域内経済の循環促進」

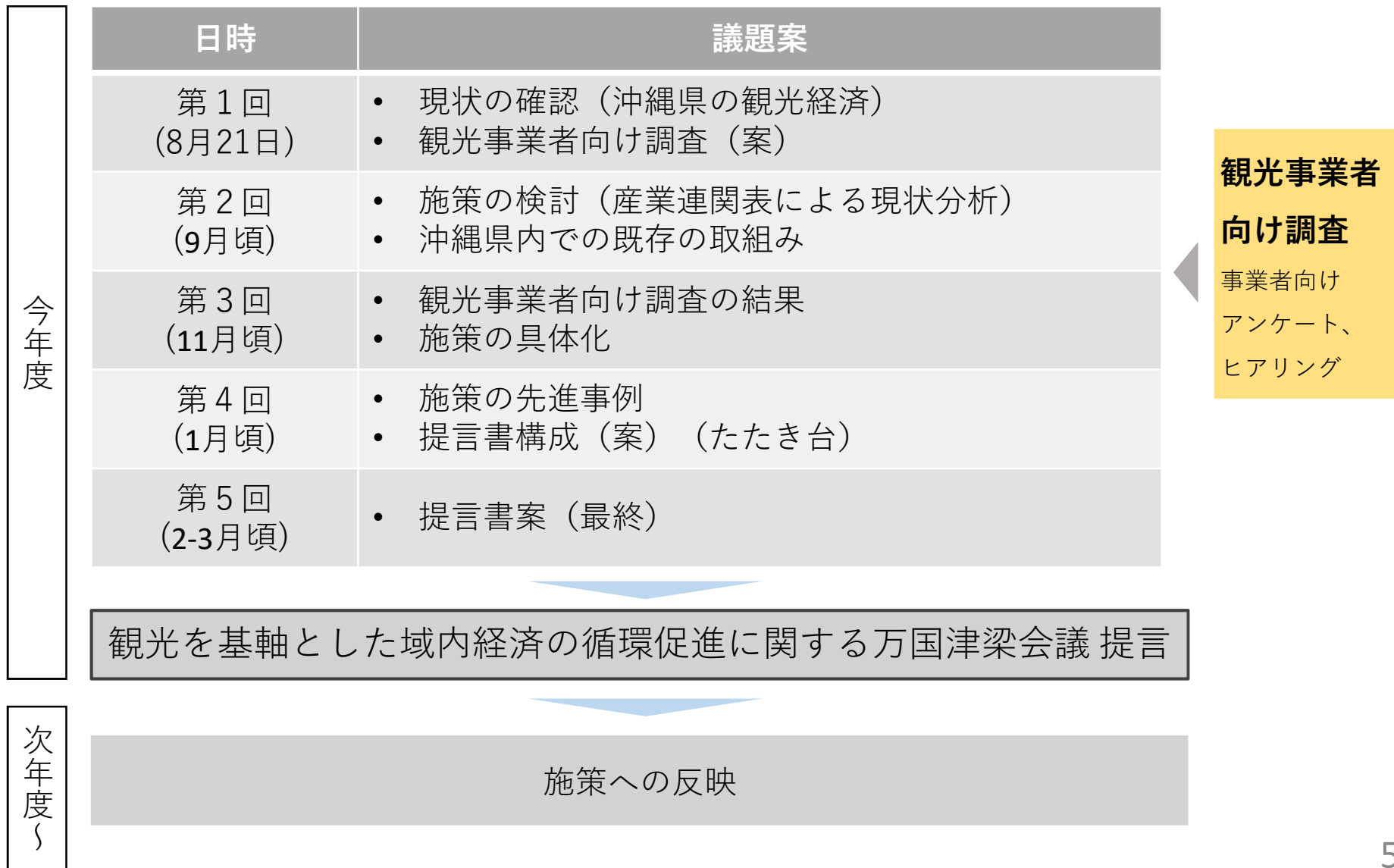
- 沖縄に来訪した観光客による消費（観光収入）は、様々な経路で県外へと漏出。
- 漏出を減らし、域内経済の循環を促進するための施策について議論したい。



出典：沖縄県. 沖縄における経済循環の構造把握調査分析,2021

4 年間スケジュール案

- 全5回の会議を通じて、最終的には提言書として取りまとめ、次年度以降の施策へ反映する。



○ 「観光需要の年間平準化に関する万国津梁会議」の概要（参考）

- 全3回の会議を経て、令和5年3月に知事へ提言書が手交された。
- 提言書では、5つの課題を踏まえ、平準化策の方針及びその施策例が示された。

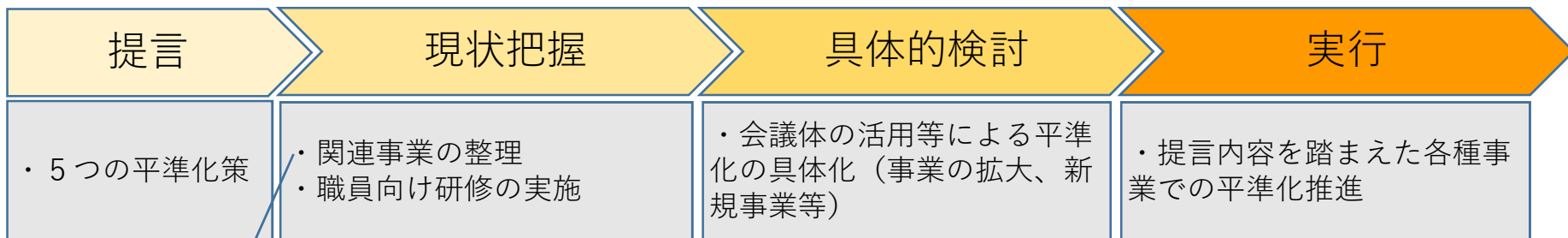
○ 課題

- ① **オフ期における来訪者の滞在日数や消費単価が低い**
 - 琉球料理や泡盛の酒蔵ツアー、各地域の伝統芸能・文化イベントなどの文化観光が、十分な活用に至っていない。
- ② **オフ期における需要獲得機会の損失が発生**
 - シルバーウィークのマネタイズやオフ期における収益を高めるための日別の需要変動に対する動的な価格設定への対応についてはまだ不十分である。
 - オフ期におけるイベントの日程が、県内外の類似イベントと重なることで、本来の集客力を活かしきれていない事例がある。
- ③ **平準化を意識した市場／コンテンツミックスが不十分**
 - 客層による季節性の違いなどの市場特性や、オーシャンリゾートだけではない沖縄県の強みを踏まえた、市場ミックスが求められる。
- ④ **施策を推進するために、従来の体制では不十分**
 - 平準化を含む施策をスムーズに推進するためには、欧米のように自主財源と権限を持ったDMOの存在が不可欠である。
 - 自治体の複数の部局による「稼ぐ力」の向上を共通目標とした体制の構築が求められる。
- ⑤ **特定の時期、場所、コンテンツ及び客層に集中**
 - 首里城や美ら海水族館、一部離島に観光客が集中することがあったほか、レンタカー不足やバス不足が指摘されている。また、インバウンドが東アジア4か国に偏っている。
 - 特定の場所に観光客が集中することで自然環境や住民生活に影響を与えることがある。

○ 平準化策の方針

- ① **オフ期を楽しめるコンテンツ開発の促進**
 - 沖縄文化体験型コンテンツ、泡盛酒造所のツアー
 - 地元産食材や琉球料理等を活用した食に関するイベントの支援
- ② **オフ期における需要獲得の機会損失の低減**
 - ダイナミックプライシング策の導入促進
 - イベント日程戦略の策定、日別の需要に関する情報発信
- ③ **季節性の異なる市場／コンテンツの戦略的な組み合わせ**
 - 県内各地域の取組やツアーに関する情報集約
 - オフ期の魅力や自然の営みと一体となったコンテンツ拡充
 - 動画を用いたターゲット別・季節別プロモーションの展開
 - ルーツツーリズムの強化、プレイベントの開催
 - 発地側の学校等への要請による修学旅行実施時期の分散
- ④ **DMO機能強化と自治体における部局横断型の連携体制構築**
 - 財源や専門的人材の確保によるDMO機能の強化
 - 県や市町村内での部局を超えた体制構築
 - 国・県・市町村の役割に応じた支援事業の実施
 - 観光利用にも適した施設の予約体制構築の促進
- ⑤ **観光コンテンツの分散化による時期と場所の平準化**
 - 観光施設、スポーツ施設などインフラ整備の推進
 - 戦跡やMROなどバスツアー、冬場のゴルフやプロスポーツキャンプ、コンサートツアーのプロモーションの促進
 - 季節ごとのコンテンツや受入体制、目的等に合わせた誘客
 - 冬場における座間味島のホエールウォッチング、与那国島のハンマーヘッドシャークを見るダイビングなど
 - 東アジアの客層には都市型観光や美ら海水族館、欧米系の客層には世界文化遺産などターゲット別のプランの組成
 - 新しい二次交通の充実

○ 「観光需要の年間平準化に関する万国津梁会議」を踏まえた取組（参考）



関連事業

提言内容	関連事業数	内容
①オフ期を楽しめるコンテンツの整備	15	伝統文化やスポーツ等に関するコンテンツ整備など
②オフ期における需要獲得の機会損失の低減	3	先読みカレンダーの作成など
③季節性の異なる市場／コンテンツの戦略的な組み合わせ	25	ターゲット別・季節別のプロモーション展開、航空会社等と連携したプロモーションの展開など
④DMO機能の強化と自治体における部局横断型の連携体制の構築	5	市町村・観光業界との意見交換や会議実施、自走化に向けた支援事業の実施など
⑤観光コンテンツの分散化による時期と場所の平準化	12	スポーツイベント等を活用した時期と場所の平準化、二次交通の充実など

○「観光需要の年間平準化に関する万国津梁会議」を踏まえた事例（参考）

・施策への反映事例（提言②関連）

令和5年度新規事業【観光情報デジタル化推進事業】

実施主体	沖縄県（観光政策課）	展開エリア	沖縄県内全域
事業概要	<p>沖縄県では観光客の増加に伴う混雑等が課題となっているほか、紙やネット上で多量の観光情報が散在しており、観光地の魅力や必要な観光情報が十分に観光客に届いていない可能性があることから、観光地等の混雑状況を観光快適度マップとして見える化するとともに、各地域の観光ガイドマップ等の集約・カタログ化と併せて、ストーリーマップを整備することにより、快適な沖縄観光や観光客の満足度・利便性向上を図る。</p>		
具体サービス	<p>【観光地等の混雑状況の見える化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人流データ等を活用した地域の混雑状況の見える化（観光快適度マップ） ・イベントや伝統行事等に関する情報をカレンダー形式で整理（先読みカレンダー） <p>【観光ガイドマップ等の集約・ストーリーマップの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドマップ等の集約カタログ化 ・ストーリーマップの整備 <p>【観光統計データの見える化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光統計データの可視化 		